

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、天竜圏域） 第1回会議 議事録

開催日時	令和3年 7月30日（金） 13時30分から15時30分まで
参加者	委員12人 事務局：3人 関係機関：5人
場 所	天竜保健福祉センター 2階会議室
内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ 天竜区長寿保険課課長</p> <p>3. 委員自己紹介</p> <p>4. 情報交換・意見交換</p> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ p1～、p5～の今年度の各地区の活動状況・情報を共有した。</li> </ul> <p>【熊地区委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配食ボランティア(くま輪の会)の紹介→地域の人に周知していくために広報紙などの準備を進めている。</li> <li>・ 4月28日、地域資源の確認を行った。 →公民館などへの移動が各部落での地形もあり、難しくなっている。また防災訓練や顔を合わせて何かを行うということが難しくなっている。</li> </ul> <p>【上阿多古地区委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 住民にアンケートを取り、困りごとにどのように対応するかを検討した。 →困りごとに対しての必要な連絡先が分かるようにする。</li> <li>・ 困りごとの相談窓口の一つとしてふれあいセンターに協力をお願いした。</li> <li>・ 困った時の連絡先の一覧表の内容について今後検討していく。</li> <li>・ 地区部会の中に若い人をどのように関わって頂けるよう、検討していきたい。</li> </ul> <p>【下阿多古地区委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去に移動販売についてのアンケートを行い、移動販売に対しての需要があった。</li> <li>・ 商店が一つもないが代わりの業者も見つからない。 →事務局からの情報で、浜北区で行われている移動販売の視察に行き、人が集まるサロン後に会場で移動販売を行ってくれるようになった。</li> <li>・ 家事支援の必要性が地区部会で出たため、浜松市社協地域支援課による浜松での家事支援について説明を受けた。</li> <li>・ 地域の真の困りごとを見つけて次へ繋げていくために、アンケートを取ろうということになった。</li> <li>・ 8月10日、アンケートの取り方、内容について検討する予定。</li> <li>・ 家事支援実行に向けて地区部会のメンバーを検討し、選定した。</li> </ul> <p>【二俣地区委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6月から移動販売(杏林堂とくし丸)が皆原地区、川口地区で始まった。 →行っていく中で改善できることを進めている。今後大型商業施設の改修もあるが、評判が良く続けてもらいたい。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配食ボランティア(げんき会)についての紹介→ボランティアの担い手がないという問題について地区部会では共有した。</li> </ul> <p>【光明地区】事務局が説明</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 光明地区は地域によって生活課題に差が大きい、住民同士の交流が少ないため地域の情報が把握できないなど課題が様々であり難しい。 →今年度、光明地区をさらに地域で分けて考えることになった。</li> </ul>

- ・鏡山地域の実態把握の方法検討し、全戸配布のアンケートを行うことになった。アンケートの内容について話し合い、課題を見つけて全体で考えていく方向になった。

**【竜川地区】事務局が説明**

- ・配食ボランティア(ほのぼの会)の活動について情報を共有した。地区部会で現状や配達する人がいないという課題について話し合った。
- ・地区社協だよりを用いてほのぼの会の紹介、部会だよりの発行とボランティアの募集を行う方向性となった。
- ・地区部会のメンバーに若い世代の参加が加わった。
- ・竜川の地域の資源マップ作成を行った。

**【春野地区委員】**

- ・磐周医師会が作成した「困った時の連絡帳」を活用して、春野版を作成しようということになり、各委員1人2部地域の65歳以上の高齢者に配布した。
- ・今後の課題として、連絡帳をどのように活用して、安心材料としてもらえるか方向性を決めた方が良いのではないかと、ということで検討することになった。

他地区への質問

**【下阿多古地区委員】**

- ・春野地区のアンケートについてとりまとめ方法などについてお聞きしたい。

**【春野地区委員】**

- ・昨年高齢者を対象にサロンでの生活課題などの聞き取り調査を行った。
- ・以前は住民を対象にアンケートを行ったが、記入する人の年齢層が偏った。

**【下阿多古地区委員】**

- ・下阿阿多古でもサロンでの聞き取り調査を行いたい。
- ・配布した際、若い世代が記入し、高齢者のニーズが聞き取れないところもあるのではないかと。

**【春野地区委員】**

- ・集計や分析は事務局が行った。
- ・アンケートを行ったきっかけは、地域の課題、地域資源の把握のため。

**【上阿多古地区委員】**

- ・野澤委員の提案により始まった。
- ・目的として、若い世代の地域で暮らすうえでの考え方や高齢者の生活課題などを把握するため。
- ・住民では60代、70代の方が一番多い。アンケートは男性の回答率が多かった。
- ・アンケートを取る目的をしっかりとしないとポイントがずれてしまう。そのうえで結果をどうしていくかが大切である。

**【下阿多古地区委員】**

- ・困った方はどういう方か、世帯によって違うためその解決方法をどうするか、対象

に合った方法か考える必要がある。

#### 他地区への質問

##### 【下阿多古地区委員】

- ・春野地区のアンケートについてとりまとめ方法などについてお聞きしたい。

##### 【春野地区委員】

- ・昨年高齢者を対象にサロンでの生活課題などの聞き取り調査を行った。
- ・以前は住民を対象にアンケートを行ったが、記入する人の年齢層が偏った。

##### 【下阿多古地区委員】

- ・下阿阿多古でもサロンでの聞き取り調査を行いたい。
- ・配布した際、若い世代が記入し、高齢者のニーズが聞き取れないところもあるのではないか。

##### 【春野地区委員】

- ・集計や分析は事務局が行った。
- ・アンケートを行ったきっかけは、地域の課題、地域資源の把握のため。

##### 【上阿多古地区委員】

- ・野澤委員の提案により始まった。
- ・目的として、若い世代の地域で暮らすうえでの考え方や高齢者の生活課題などを把握するため。
- ・住民では60代、70代の方が一番多い。アンケートは男性の回答率が多かった。
- ・アンケートを取る目的をしっかりとしないとポイントがずれてしまう。そのうえで結果をどうしていくかが大切である。

##### 【下阿多古地区委員】

- ・困った方はどういう方か、世帯によって違うためその解決方法をどうするか、対象に合った方法か考える必要がある。

##### 【上阿多古地区委員】

- ・野澤委員の提案により始まった。
- ・目的として、若い世代の地域で暮らすうえでの考え方や高齢者の生活課題などを把握するため。
- ・住民では60代、70代の方が一番多い。アンケートは男性の回答率が多かった。
- ・アンケートを取る目的をしっかりとしないとポイントがずれてしまう。そのうえで結果をどうしていくかが大切である。

##### 【下阿多古地区委員】

- ・困った方はどういう方か、世帯によって違うためその解決方法をどうするか、対象に合った方法か考える必要がある。
- ・地域でどんな思いで暮らしているのかを頭において、どこまで支援するのか考える必要がある。

##### 【事務局】

- ・家事支援の対象は地区社協によって違うため調べていく。

**【包括】**

- ・地区部会は各地区によって特徴がある。そのためこのような場で共有できることがとても良い場であると思う。

**【光明地区委員】**

- ・市営住宅は入れ替わりが多く、実態を把握するのが難しい。
- ・様々な方が暮らしており、近くの方が支えてくれているコミュニティもある。そのためそれをわざわざ生活支援体制づくりに当てはめようとするのではなく、そこに入っていない人をどうしていくかを大切に活動している。
- ・サロンでは男性にとってあまり面白くないこともと聞く。それはサロンに参加しなくても生活は成り立っているという良いことであると感じる。

**【下阿多古地区委員】**

- ・家事支援を行うにしても、生活支援体制づくりに関してもコーディネーターがそのことを頭に入れて支援する必要がある。

**【光明地区委員】**

- ・生活支援体制づくりの枠組みを広く作り、その活用方法は住民の意思で選択して活用することが良いのではないかと思っているがそれが難しい。

**【長寿保険課】**

- ・各地区の活動に対して、それぞれの特徴がある。体制が出来ている部分は見守りにして、入り込みすぎないように支援することが難しいと感じる。

**【光明地区委員】**

- ・以前参加した会議で、幼稚園の先生などの参加者もいた。高齢者、子どもと話し合いの内容が別れてしまっている為、連携が必要であると感じる。

**5. その他****【熊地区委員】**

- ・子どもがおらず2人暮らしで一人が入院してしまった場合、どこへ相談したらよいか分からない。民生委員もその方を知らず、本人もプライドがあるため相談しにくいと感じている。
- ・高齢者の方々はそのような相談先が分かっているのか知りたい。

**【光明地区委員】**

- ・民生委員が間に入って、知らなくてもどこかには繋げるなどしているので民生委員に相談するのが良いと感じる。

**【事務局】**

- ・社協でも、ふれあいセンターでも、包括でも相談すれば途切れることはないと思う。

**【包括】**

- ・住んでいる地域が違っていてもそこへ繋げることは可能であり、そこへ電話したらよいか分からないという電話でもその地域の地域包括支援センターに相談していただければ、必要な電話先へつなぐことが可能である。

	<p><b>【CSW】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社協や CSW に相談していただけたら他地区へつなぐことが可能。</li> </ul> <p><b>【高齢者福祉課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・はままつ友愛の高齢者プランについての説明</li> </ul> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他地区の活動に関する情報が欲しい。などがあればご相談ください。</li> </ul> <p><b>【二俣地区委員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幸処ミツワキの情報共有</li> </ul> <p>6. 次回の予定</p> <p><b>【事務局】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次回は11月～12月を予定している。</li> </ul>
<p>今後の見通し等</p>	<p>区外の先進地域から活動者を招いての勉強会など提案しつつ各地区部会の情報交換の機会として、現在の活動の支援を行っていく。</p>